

中間支援活動助成(基本)事業実績報告

団体名	(特非) 場とつながりの研究センター	代表者名	理事長 長谷川 計二
事業名	NPOや地縁団体の事務力アップ支援事業		

<事業実施実績>

	①相談業務	②ネットワークの構築 情報提供	③人材育成 (講座開設等)	④書類作成 指導	⑤その他 (調査研究等)
R3 実績	296	72	2	45	12
R4 計画	—	—	講座2	—	—
R4 実績	293	80	10	35	10

<効果と成果>

場とつながりの研究センターは「意欲する人」が集う場を作ることを目的に立ち上げた団体で、関心をもつプロジェクトにスタッフや支援者が集まってくるような「旗を立てる」活動に取り組んでいる。近年、子ども・若者支援や外国人支援といったテーマにおいてスタッフ・ボランティアが集まっており、組織・プロジェクトの厚みが増していることを実感している。すべての活動において「当事者の声を聴く」ことを軸に取り組んできた。

NPO 相談支援事業では、民設民営の強みを活かし、団体の実情に合わせたオーダーメイドの支援に取り組むなど、専門的なアプローチで支援を行った。NPO を「社会参加の器」として捉え、寄付・助成金やボランティアなどさまざまな社会資源を集めること・参加の方法についての支援を試行・実践してきた。他のスタッフを雇用する予算が十分でない中で、雇用以外の形で支援のあり方を広める取り組みを行ってきた。

<今後の展望>

NPO 支援の意義・役割が全国的にぼやけている感覚を持っており、単につなぐ・紹介する・情報を提供するのではなく、何をそこから生み出そうとしているのか、本当の解決の状態とはなにか、継続的な関与のあり方も含めて支援のあり方が問われているように感じている。加えて、地域活動やNPOの担い手不足の課題も解消されることがない。当団体が学生をはじめとした若者支援や参加支援の実績を多く積んできているが、公設民営型のセンターとは異なるアプローチで、新たな取り組み主体の育成にも取り組んでいきたい。

また、後期から取り組み始めた「ミニフードバンク構想」は、多様な主体の参加や持続可能なマネジメントが求められるなど、まさに中間支援活動としての集大成の一つとして取り組むべき内容となっている。円卓会議などの手法を使いながら、地域を地域が支えるための仕組みづくりには多様な主体の参加に向けて取り組みたい。

<収支決算書>

(収入)

項 目	金 額 (円)
中間支援活動助成金	500,000
参加費	12,000
自己資金	102,628
合計	614,628

(支出)

区分	項 目	金 額 (円)	左のうち 助成対象金額 (円)
直接 経 費	人件費	528,530	440,000
	謝金	64,548	60,000
	旅費交通費	3,920	0
	その他(会場費、印刷製本費、 消耗品費 等)	17,630	0
	小 計	614,628	500,000
間接経費(一般管理費)		0	0
合 計		614,628	500,000